

第

2

0

回

日本癌病態治療研究会の開催にあたって

第20回 日本癌病態治療研究会当番世話人
東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻
社会予防医学講座分子予防医学 教授

松島 綱治



このたび、節目となる第20回日本癌病態治療研究会を東京大学医学部教育研究棟にて開催させていただくことになり、誠に光栄に存じます。

20年前に生越先生とともに本研究会の立ち上げに関わった者として感慨深いものがあります。発足時は、日本特有ともいべきいわゆる癌免疫アジュバント療法の有効性の検証、作用機序の基礎免疫学的解明、悪液質などの癌病態制御機序の解明と QOL の客観化などがメインテーマであった、と記憶いたしております。いつも生越先生から奇抜な質問をいただきながら、何とか私なりに応えようと本研究会に関わってきました。この間、確かに画像診断技術などは飛躍的に進歩いたしました。しかし、癌の化学療法、免疫療法にはまだまだ限界があります。「癌の分子標的治療、抗体療法、固形腫瘍に対する多剤化学療法、化学療法と放射線療法の併用、樹状細胞療法、癌ペプチド療法は本当に癌患者の QOL 改善、延命に繋がっているのか？」再度原点に戻り、新たな発展を期したいと思っております。そのような意味を込めまして、今回のメインテーマは「癌病態制御・治療における新機軸」といたしました。

本年度研究会では、シンポジウムのテーマとして「癌克服を目指した大学発トランスレーショナルリサーチ」と近年大きな注目を集めています。「がん幹細胞 (Cancer stem cells) と上皮-間葉間転移 (EMT)」を取り上げ、第一線の研究者をお招きしてこれら2つのテーマの最前線をご講演いただきます。また、東京大学医科学研究所の清木元治教授にメタロプロテアーゼによる癌転移制御に関する特別講演をいただきます。ワークショップでは、「食成分と癌病態」、「癌と epigenetics・microRNA」、「腫瘍に対する免疫応答とその制御」、「Cancer and Inflammation」という4つのテーマを取り上げて、それぞれ4～5題の招待講演をいただきます。その他、一般演題2項目、症例報告を取り上げており、いずれも充実した討論を行っていただくに十分な時間を設定しております。

会員の皆様方の積極的なご参加とご討論により、実り多き研究会になることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。